

SSKS

2025. 5月号

No. 574

せんかわだより

～あるがままに あたりまえに～



令和7年度 入所式を行ないました



今年度の武蔵野千川福祉会は5名を迎えて利用者総勢144名でスタートします。

障害者福祉課長をはじめ、出身校の先生来賓の方々にご参列いただき、厳かな雰囲気の中で、新利用者は緊張した面持ちでしたが、挨拶と自己紹介がしっかりとできていました。みなさんの生活が充実したものとなるよう、職員もより良い支援を行っていこうと気持ちを新たにしました。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>



理念遂行の運営に立ち返って

～令和7年度 社会福祉法人武蔵野千川福祉会 事業計画の概要～

令和7年度で武蔵野千川福祉会は、無認可共同作業所の千川作業所を設立して50年目となります。当初、法人として障害のある方々に働く場をつくる、高い賃金を払う、働くことが生きがいになるといった働くことを支援することに注力してきました。現在では、できることを増やして、個々に自立した生活ができるようになることを支援の目的にしています。その目的の達成のためには、働くことだけでなく、さまざまな知識や技能を身につけていただくようにしなければなりません。当法人では、「はたらく」「くらす」「学ぶ・楽しむ」「かかわる」という観点で支援をすることで、力を伸ばしていただくようにしています。しかしながら、まだ支援の内容については職員が学習、研究をしながら、作りあげている途中です。当法人の特徴を生かすために、理念に基づき支援の内容が障害のある人にとって必要なものとなっているかという視点を大切にしています。この理念は、50年前に先輩たちが共同作業所全国連絡会を立ち上げたときに、仲間の事業所と一緒につくられたものです。現代でも必要な視点が盛り込まれており、当法人では毎日職員間で唱和して内容を確認しています。設立50年をふり返りつつ、今一度、理念の遂行をしっかりと続けることができるようにしていきたいと考えています。

今回は、法人のとりくみの現状をお伝えするため、3月の理事会にて議決された令和7年度事業計画について、内容を紹介させていただきます。

法人理念「わたしたちのめざすもの」

- 障害のある人の人権、労働、生活を守り発展させ、要求に応えることに全力をつくします。
- 障害のある人並びに家族の安心・安定・安全を作り出していくための事業を推し進めていきます。
- 地域での暮らしを豊かなものにするために、障害のある人に関わる総合的な保障を追求していきつつ、地域を耕す努力をします。
- 障害のある人の人権ならびに福祉事業に対する理解を、多くの市民と連携を図りながらすすめていきます。
- 武蔵野千川福祉会のもと、運営、実践、事業、運動の要である職員は、個々の力量及び集団の力量を高めるため、たゆまざる学習、研究をすすめます。
- 共同、共通する多くの福祉関係者並びに団体と連携しながら、ともに運動をすすめます。

【法人理念「わたしたちのめざすもの」】

当事者に必要な支援を

はじめに、これまで50年の運営の特徴についてふり返ってみたいと思います。1976年に千川作業所を設立して、約10年後の1986年に第二せんかわ作業所（現在のチャレンジャー）を立ち上げます。さらに10年後にむさしのワークスを立ち上げ、働く場が3つになります。その頃、働く場について武蔵野市内に新しい事業所が立ち上がり、3つの事業所を機能別事業所（生きがい型、福祉工場型、高生産・高賃金型）に分けました。それと同時にレスパイト事業としてご家族の介護負担の軽減や、冠婚葬祭、入院時などに対応できる生活支援事業を独自に開始します。それを武蔵野市に補助事業としていただいたのが、桜はうす・今泉、井の頭はうすです。このように障害のある方に必要な事業を起こす、先駆的にとりくむということが法人の運営の特徴となりました。



【1980年代 無認可共同作業所時代】

今後50年を見据えて

令和5年度に中長期計画を策定しました。法人運営、就労支援、生活支援、相談支援、児童支援の各とりくみについて、中期（5年）、長期（10年）の計画となっています。特に、障害のある方の生涯学習支援、就労支援における態度の育成、生活支援におけるひとり暮らし移行支援、相談支援における体制の確立、児童支援にお

けるプログラム支援があります。年度ごとのとりくみ目標を立て、毎月進捗を確認してすすめます。運営内容をわかりやすく、魅力的にすることで、利用者への最大限の支援ができるように、担い手である職員も増えていくように、法人事業が将来まで継続して発展していくような内容となっています。

令和7年度事業計画

その中長期計画に基づき令和7年度の計画を策定しました。重点的なとりくみの一つは、市内の特別支援学校等からの希望者の増加を見込み昨年12月に開所した「Beeワークス」を安定運営していくことです。通所事業は8事業所、定員170名として、ますます地域の希望される方に安心して利用していただくことができるようにします。二つ目は、吉祥寺南町3丁目の市有建物で行なうひとり暮らし体験事業（「つぼみの家」）です。武蔵野市が福祉事業に貸与する事業に応募し、障害のある方の将来を見据え、ひとり暮らしの訓練をしていただく事業を提案し、当法人が選ばれました。障害者福祉情勢の今後を鑑みると、入所施設、グループホームだけでない生活支援のかたちが求められてきます。現在もサテライト型といった支援もありますが、「つぼみの家」は法人独自事業として実施していきます。三つ目は、相談支援、生涯学習支援、就労継続支援B型事業所の拠点として計画している吉祥寺南町4丁目の建物の建設について、丁寧に検討し、利用者の皆さんにとって必要な事業となるよう、計画をすすめることです。

各事業のとりくみについては、就労継続支援では、昨年度から見直しをすすめている就労支援事業収支の適正化、工賃の改訂についても実施させていただいています。生活介護では、学習活動の導入と3事業所共通の活動づくり、地域生活支援では、ひとり暮らし支援に向けたとりくみ、相談支援では、各事業と連携した支援体制の構築、幼児・児童支援では、支援プログラムを明確にして、利用をひろげていくことを決定しました。



【令和6年12月開所のBeeワークス】

計画実行のためには

それらの計画を実現させていくためには、利用者、ご家族、関係者のみなさまのご理解とご協力はもちろんのこと、職員一人ひとりの活躍が大前提となります。理念の5番目にある、「たゆまざる学習、研究をすすめます」という内容を実行し、利用者のみなさんへの支援が常に最善となるように、当法人独自にさまざまな研修を行なっています。職員研修として、①分野別研修（就労支援、生活介護、生活支援、相談支援、学習活動）、②職層別研修

（初級、中級、管理職）、③職員全体研修（法定研修、法人の歴史、年度末研修など）など内容を充実させ、それぞれ職員が自ら学び、発表できるようにして、学ぶ姿勢を養っています。

また、近年のとりくみとして、理念6番目にある団体との協働について、障害のある人を支援する事業所、団体と学び合う関係づくりをすすめています。令和6年度は全国6カ所の団体へ視察研修をさせていただきました。

職員が成長することで、法人のとりくみが発展し、計画を実現することができると思え、今後も学び続けていきたいと思えます。

（文責：常務理事 唐澤 啓一）



【令和6年度末職員全体研修(3月)の様子】

お寄せいただいたご寄付に 心から感謝申し上げます

長田 清英 様	谷 義雄	様
大野 弘嗣 様	ヘアサロン アンドウ	様
正田 健三 様	ボランティア つくしんぼの会	様
小堤 昭 様	東京第三友の会	様
佐藤 徹 様	東京第三友の会吉祥寺エリア	様
臼井 均 様	その他匿名希望	様
鈴木 昇 様		(順不同)



【とびっくす】～インスタだより vol.23～ #お花見



毎年恒例、この春もグループホームでお花見へ出かけました。

桜の木の下で待ち合わせをして、散歩しました。満開の桜の下で満面の笑みも見られ、とても楽しい土曜日の午後となりました。



今月の動向 ～令和7年4月～

1日(火)入所式
7日(月)常任理事会
8日(火)おひさま歓迎会
9日(水)就職説明会
16日(水)所長会議
17日(木)GH学習会、生活介護学習会
23日(水)幼児・児童支援部学習会
24日(木)常任理事会

来月の予定 ～令和7年5月～

1日(木)学ぶ学習会、B型学習会
7日(水)常任理事会
11日(日)生涯発達・地域生活支援研究会
13日(火)法人事業説明会
14日(水)所長会議
15日(木)業務監査
16日(金)おひさま親子遠足
22日(木)会計監査
26日(月)経営基礎研修



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>

<発行人> 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区御形3-1-17-102 TEL 03(6277)9611

<編集人> 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 東京都武蔵野市境南町4-20-5 TEL 0422(30)0022 定価50円